

一声社：TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537

今日は何の日？

4月30日は、南部解放記念日（1975年、サイゴン陥落）、荷風忌（1959年、永井荷風の忌日）です。

閑話休題

ヨネやん ゴレンジャーになる！

②しかも、モモレンジャーに!?

（前回からの続き）「これで最後やから」「どうしても人手が足りんねん！」…泣き脅しに乘せられ、気づいた時には、和歌山県のとあるスーパーにいたヨネやん。

「ゴレンジャーって言うけど、女性は？」
「キミがやるんや」。手配師が指さす方向には、僕一人。いくらニセもんでも無理があるだろう。

しかし次の瞬間、僕はスーパーの屋上に立っていた。高所恐怖症の僕が……。

屋上での派手なパフォーマンスの後、地上に降り立ったニセゴレンジャー。本当の苦痛はそこからだった。

「さあ、ちびっこども。ゴレンジャーと写真を写そう！サインをもらおう！」

（小さな声で抗議する僕）「聞いてないで！サインなんか出来ひんで！」

「ミミズが這うような字い書いたらええねん」…この人には無理と言う概念がない。

良心の呵責にさいなまれながら、「モモレンジャー」とサインを書く僕。「辛い。はよ、終わって欲しい」—そんな事を考えていた僕の耳に、子どもの叫び声が聞こえてきた。

「モモレンジャーにヒゲ生えとる！男や！ニセもんや！」

「終わったな…。バレた。どうするねん？せやから無理やあ言うたやん」

しかし、そんな事でへこたれる手配師ではない。次の瞬間恐るべき事を言った。

「モモレンジャーは、闘いに明け暮れているうちに、体が男のように変わってしまったのだ。モモレンジャーは泣いている！みんなで励まそう！」

ああ言えばこう言う—いつの時代にもおりますな。こんな方。

この本はお勧めです！

『鬼の橋』（伊藤遊著、福音館文庫）

舞台は平安時代。妹を亡くした少年の苦しみを読み手自らの痛みとして伝わり、ともに成長していける。物語の風景がまざまざと見え、その空気に触れる事が出来るような気にさせられる作品。

大人もぜひ読んでほしい。

保育書&小道具フェア開催中！

★変身泥棒

（『おはなしの小道具セット①』藤田浩子）

*切る・貼る・塗り絵で、すぐに使える！

*子どもたちはビックリ！

サンタクロース編も同封されている。

◎「変身泥棒」の動画は、

このQRコードでご覧ください。↓



今日の歌：川柳

江戸っ子は 五月の鯉の 吹き流し

□先ばかりで はらわたはなし